学校番号	1205

令和８年度　家庭科

教科	専門家庭	科目	保育基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「保育基礎」　実教出版						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科書とプリントによる授業で、保育に関する知識や技術を習得します。動画教材も用いながら、乳幼児の健全な成長に関心をもつことができるようにします。体育祭や文化祭などに、近隣の保育園より園児を招待し、幼児と触れ合う機会を設けます。園児に渡すプレゼント作成もします。
また知育おもちゃや、新生児の抱き方等新生児人形での体験もできます。

2　学習の到達目標

・乳幼児期が人間発達の基礎を培う時期であるため、子どもと触れ合う機会を通して、子どもの発達の特性や、保育などに関する知識や技術を習得する。
・乳幼児の健全な成長に関心を持ち、実践的な態度を身に付ける。
・子どもの発達や子育て支援について関わろうとする意欲や態度を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・子どもの発達の特性や発達過程、保育等に関する知識を身に付けることができる。 ・子どもと触れ合ったり子育て支援を行っている人々と交流を図ったりする学習を通して、発達過程に対応した技術を身に付けることができる。	・子どもの健全な育成、親子関係、少子化などの現代における課題を模索し解決策を紐解く思考をつけ深めることができる。	・子どもの心身の発達や子育て支援など社会の問題についても関心を持ち自ら子どもと関わろうとする意欲と態度を身につけることができる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	子どもの発達と特性	・オリエンテーション ・子どもの発達 ・乳幼児期の特徴 ・発達と保育環境 ・児童観と発達観	a:乳幼児期の特徴を理解する。 b:人間の発達に関心を持ち乳幼児期の意義について思考することができる。 c:現在の自分の立場とこんにちの児童観の違いを主体的に考えようとしている。	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 考査	ﾚﾎﾟｰﾄ	振り返りﾚﾎﾟｰﾄ
	子どもの発達過程	・子どもの発育 ・子どもの精神発達 ・人間関係の発達 ・妊婦体験 ・沐浴体験実習 ・体育祭での園児との交流	a:乳幼児期の発育の過程を理解することができる 運動機能、感覚機能 b:第一次反抗期における関わり方の意見交換ができる。 c:園児と積極的に触れ合いを試みようとしている。 園児の話しかけに傾聴しようとしている。	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 考査	ﾚﾎﾟｰﾄ 考査	振り返りﾚﾎﾟｰﾄ 実習
2学期	子どもの生活	・生活と養護 ・子どもの遊び ・生活習慣の形成 ・健康管理と事故防止 ・絵本作り(紙面)	a:乳幼児の生活のリズムを把握し子どもが心身の健康を保つために養育者の働きかけや配慮が重要であることを理解する。 b:乳幼児の生活が安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。 c:乳幼児期の食生活に関心をもち実践しようとしている。	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 考査	ﾚﾎﾟｰﾄ 考査	振り返りﾚﾎﾟｰﾄ 実習作品
	子どもの保育	・保育の意義と重要性 ・家庭保育と集団保育 ・保育の方法 ・文化祭での園児との交流 ・知育玩具作り(フエルト)	a:子どもの遊びの意義について理解することができる。 b:子どもの発達に合わせた玩具選択ができる。 c:子どもと遊びを通して遊びの援助を積極的に実践しようとしている。	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 考査」	ﾚﾎﾟｰﾄ 考査	振り返りﾚﾎﾟｰﾄ 実習作品

3学期	子どもの福祉	・子どもの福祉 ・子育て支援 ・子どものアレルギー対応 おやつ実習	a:子育て支援の意義と現状を理解することができる。 b:児童虐待の現状と対策について考えることができる。 c:子育ての現状を踏まえこれからどのような子育て支援が必要になるのか積極的模索している。	授業ﾌﾟﾘﾝﾄ 考査	レポート 考査	レポート 実習作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度